

けが・ねんざ・やけど



野外活動に「けが」や「ねんざ」や「やけど」はつきもの。いつもと違う「雑草の森」に来たというだけで子ども達の気持は高揚、注意もおろそかになりがちです。だからと言って何もかも禁止や制限するのではなく、指導者が救急対処の知識を高めて、子ども達に、自然の中で伸び伸びと活動させてやりたいものです。この資料は、けがやねんざ、やけどなどの対処法を図式化して説明したものです。

基本

傷の手当ての基本は

①血を止める、②菌感染を防ぐ、③痛みを和らげる ことにあります。

治療

切り傷・刺し傷・擦り傷のとき

傷口が汚れていたら、水道水で洗います。
消毒して清潔なガーゼを当てます。



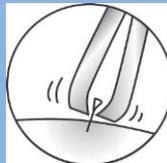
鼻血が出たとき

鼻をつまみ静かに座らせ、額から鼻にかけて冷やします。
仰向けに寝かせたり、首の後ろをたたいたり、頭を後ろにそらせたりしません



ハチなどに刺されたとき

針が残っていたらとります。
その後、水で洗い冷やします。
ひどいときは、病院に行ってください。



ねんざや打撲のとき

冷やして安静にし、動かさないようにします。
動かしたりすると内出血やはれがひどくなります。



やけどをしたとき

すぐに冷水で、痛みが取れるまで冷やします。
ひどい場合は病院に。病院に行く前に水ぶくれをつぶしたり、薬をつけたりしないように。



頭を打ったとき

安静にして、寝かせます。
ひどい場合もありますので必ず病院に連れて行きます。
身体を揺すったり動かしたりしてはいけません。



注意点



- けがややけどの手当てをする前は、必ず手を洗いましょう。
- 身体や衣服に血液が付いたときは、水で洗い流しましょう。
- けがややけどがひどいとき、救急車を呼びたいときは、センター職員にご連絡ください。